

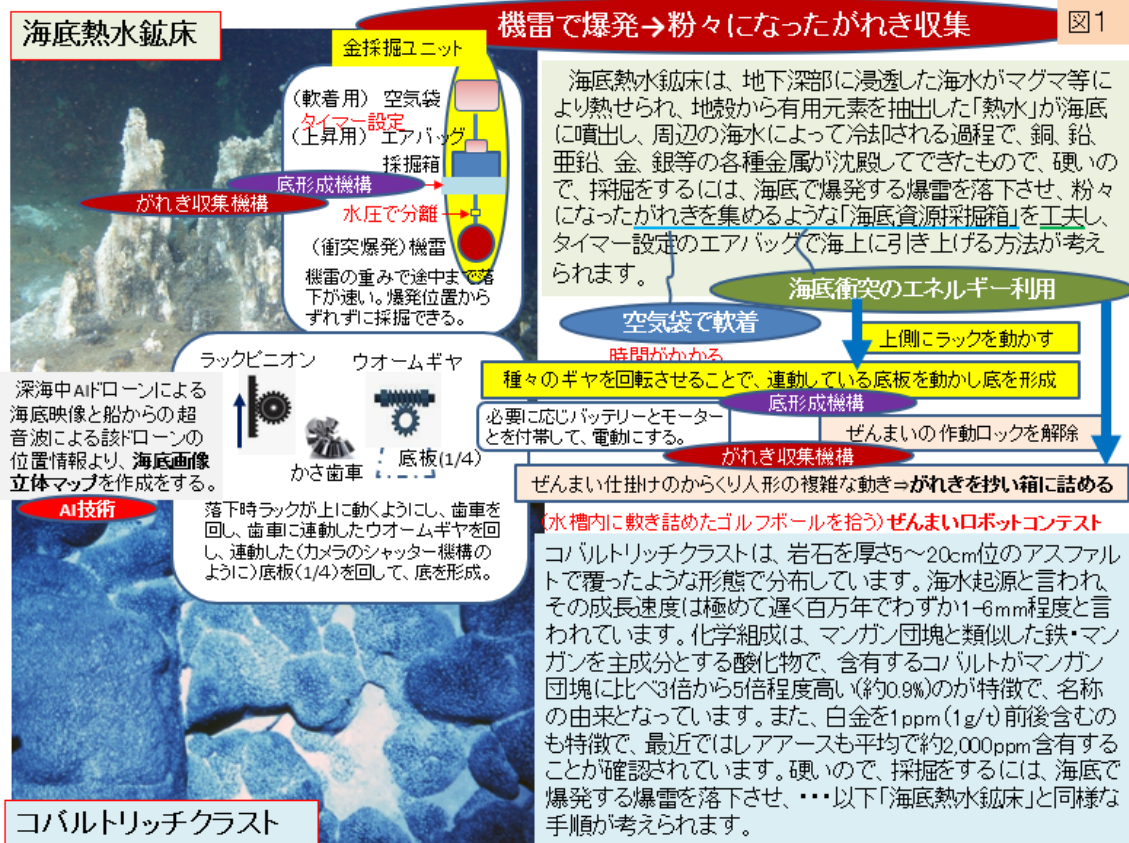
マルコポーロが紹介した日本の再現

黄金の国ジパング

レアアース輸出大国日本

1. 黄金の国ジャパン「金採掘ユニット」

深海の金を含む岩盤を機雷で破壊し、その結果生じる、「金を含むがれき」を収集して、タイマー式エアバッグを展開し、浮力により海上へ運搬する。



(補足説明)

機雷を設定する理由は三つあり、一つは海底の岩盤を破壊することですが、もう一つは、収納箱を海底に軟着させるために、空気袋を設定する必要があります。そうすると深海底までゆっくりと落下するために時間がかかりますが、機雷の重量はとても重い(数百キロg程度)ので、機雷が付帯した状況では海中での落下速度が速くなり、金の採掘のサイクルの時間短縮になります。すなわち、機雷は海中での落下速度を速めるためにも役立ちます。

さらに、水圧で分離するユニットによって、海底に到達する前に機雷が金採掘ユニットから分離され、先に落下し爆発するので、金採掘ユニットは安全であり、また同じ落下ルートなので、三つ目の理由として、爆発した地点からずれずに、金を含むがれきを採掘することができます。

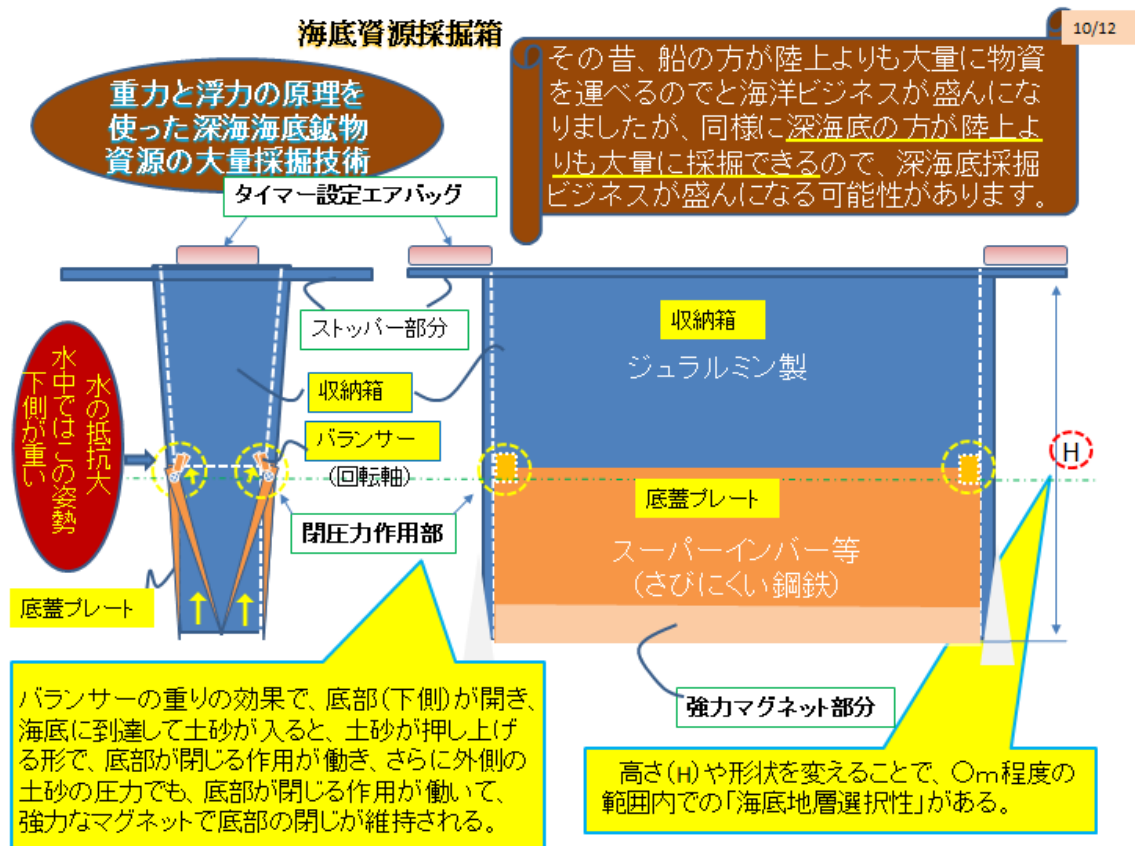
超黄金の国ジャパン

詳しくは以下の URL の特許草案をご参照下さい。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_9dea72892cf04f24a0f6817cc4b10d36.pdf

2. レアアース輸出大国ニッポン「海底資源採掘箱」

「海底資源採掘箱」とは、4辺の下側が尖った底なしの該収納箱を海上から海底に落とし、落下の勢いで海底の土砂に食い込んだ該収納箱の内側の土砂により、該収納箱に付帯した二つの底蓋プレートの先端が合わさり、また強力なマグネットの力で維持されて、底蓋を形成し、また該収納箱の海中落下時間を考慮したタイマーが働き、エアバッグが展開し、該エアバッグの展開による浮力により、海底の土砂を収納した該収納箱を海上に浮上させるものです。



収納箱の高さや形状を変えることで、深海底の地表面近くでの地層選択 (=海底地表から0m程度の深さの土砂(泥)を主に採掘する等)がある。

底蓋の維持はマグネットの力だけではなく、該収納箱の内部に取り込まれた土砂の外側への圧力が、バルンサーを外側に押しつけることでも維持される。

うまく底蓋が形成されないときは、バルンサーの角度や大きさを変えてみたり、一つの該底蓋プレートに対し、角度の異なるバルンサーを複数設定する等で解決する。

レアアース輸出大国日本

詳しくは以下の URL の P11~12 をご参照下さい。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_d08d460ce84242d1a0f2fbc437e35f0b.pdf

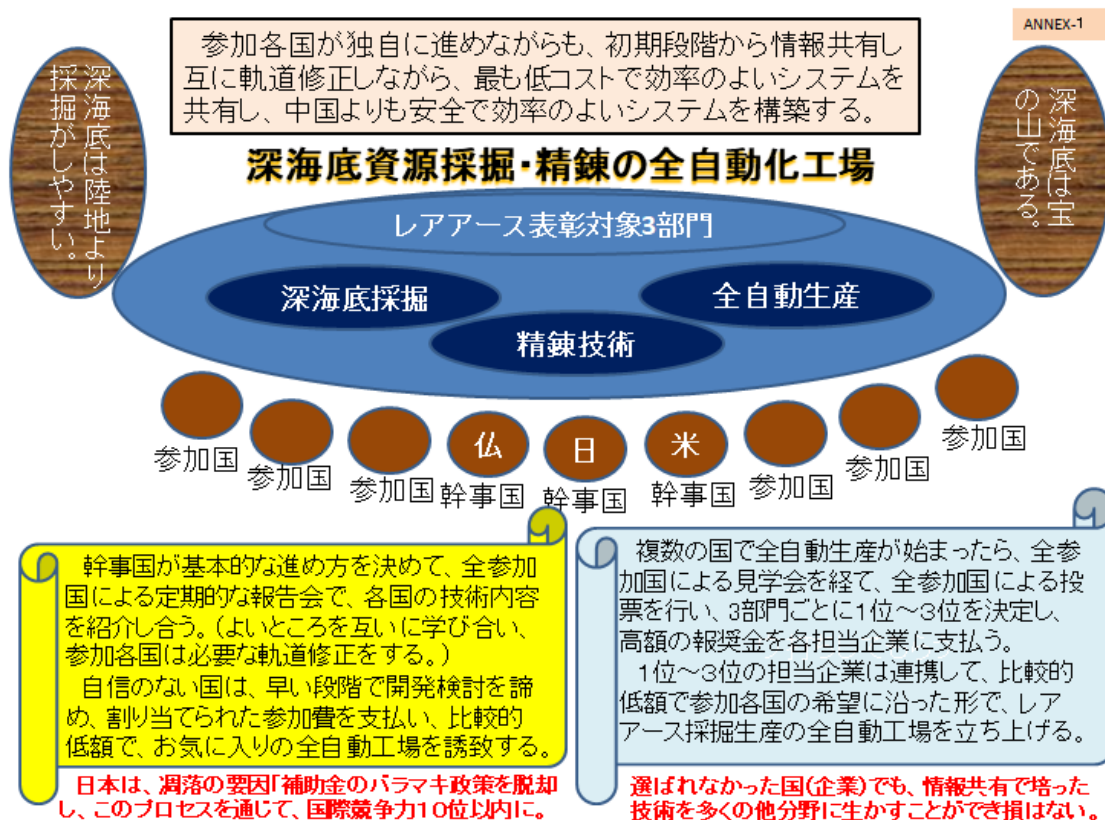
3. 進め方について

国（内閣府や経産省）や東京大学に早急に進めるようお願いしております。日本には「国の大計」がなく、このままでは、国際競争力 38 位、一人当たりの GDP24 位から、さらに凋落することが目に見えています。

高市総理がトランプ大統領とマクロン大統領に直接会い、レアアースの調達の協力体制を確認されており、日米仏（EU）の協力で、カーボンニュートラルも含め、深海底の金やレアアース採掘の国際的枠組を構築すべきです。

<内閣府 SIP プログラム担当様への依頼事項>

1. 「金採掘ユニット」「海底資源採掘箱」により、陸上よりも深海底の方が簡単で低コストであることをご認識されて、広く情報発信をお願いできますと助かります。
2. 第一添付書類をフランス又は EU、米国との情報共有をお願い致します。：第二添付書類の ANNEX-1 のような形で進めたい意向の打診を彼らに伝えていただけますと助かります。
3. 日本が開発の主導権を握るために、まず「海底資源採掘箱」の研究開発を早期にメーカーや大学等に取り組みのお願いができますと助かります。（第二添付書類の P12 及び第三添付書類をご参照下さい。）



第一添付書類：

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_0b4c9a79db85465d87ab0bb9d4b6d3b0.pdf

(↑NGの場合：「木造人工島」で検索し「ガーデンフィールド」のHPにて、A4程度をスクロール「Global carbon neutrality」をクリックして下さい。)

第二添付書類：

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_d08d460ce84242d1a0f2fbc437e35f0b.pdf

(↑NGの場合：「ガーデンフィールド」のHPにて、A4程度をスクロールして、「日米仏共同事業」をクリックして下さい。)

第三添付書類：

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_9dea72892cf04f24a0f6817cc4b10d36.pdf

↑NGの場合：「ガーデンフィールド」のHPにて、A4程度をスクロールして、「レアアース採掘特許草案」をクリックして下さい。)

(補足説明)

公海上の金の採掘を独占的に日本だけで進めると、中ロだけでなく、米欧等からの反発もあり、無関係ななにかの制裁を課されたり、場合により中ロからの軍事目標にされかねないので、米国やEUと技術協力をし、しかも彼らが中ロからの口撃の盾になり、連携は欠かせないと考えています。

連携が必要な理由は、もう一つあります。日本は国際競争力 38 位で、米国やフランスと同等な技術力は既になく、と考えています。例えば（通信技術世界一位を誇っていた）NEC が、5G の基地局を政府から受注したものの、その技術力は既になく、サムソンから技術を購入して対応している等・・・

AI 技術による採掘・精錬の 24 時間全自動化を達成するために、米欧の協力が必要です。

日本の技術力低下は、各省庁の補助金のバラマキ政策によってもたらされ、例えば、オーストラリアの褐炭事業では、「実施宣言&大宣伝→莫大な補助金受領→やっているふりだけでほとんど何もしない（技術の研鑽がない）→数年後に撤退宣言で終了」のようなことをやっており、他に、「ブルーカーボン」「空飛ぶ車」「レベル 4 の実証実験」等があり、デブリの取り出しや新規半導体事業の Rapidus 等は、とても難度が高いにも関わらず本気度が足りず、同類項ではないかと想定しています。

国際連携による情報共有を経て、（国際競争力 38 位以下になっている状況、NEC・富士通のパソコン事業や最後に残ったソニーの TV 事業が中国企業に買収され、また日本の再エネ市場が中国企業に席卷され、日本の山林を買いあさり環境破壊を起こすメガソーラを設置している状況を踏まえ）これではいけないと気づき、AI を含むハイレベルな技術力を取り戻すことを期待しています。



(↑ : AI が作成した、黄金の国ジパング)

日米欧が協力して、南極や北極、グリーンランド付近等の公海に、CO2 を吸収してくれる木造人工島のブルーカーボンを設置し、海藻の育成管理や栄養分の補給、SeaSola 等のメンテナンス要員を派遣し、世界のカーボンニュートラルの早期達成のためにと、国際探掘権を獲得した上で「海底資源探掘箱」を海底に投下し金銀銅やレアアース等の探掘を同時に行うと効率よくできます。

超環境先進国ジャパン

